

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保険医療学専攻	分野	医療福祉経営学分野
学籍番号		院生氏名	草刈 由美子
通学キャンパス			
論文題目	急性期病院に勤務する看護師の急性ストレス反応とその関連要因の構造分析—看護師経験年数別の比較—		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文について</p> <p>1) 研究の概要</p> <p>本研究は、医療現場における働き方改革の一環としてのメンタルヘルス対策に係る、急性期病院に勤務する看護師の急性ストレス反応とその関連について、組織評価を含めたストレスモデルを作成し、経験年数別に共分散構造分析を用いて明らかにしている。そして本研究によってストレス対策における看護管理上の方策を検討したものである。</p> <p>2) 研究方法</p> <p>研究デザインは無記名自記式質問紙を用いた横断研究であり、調査対象は関東地方にある急性期の2病院のスタッフ看護師720名のうち525人からの回答(有効回答率86%)を用いており、2018年3月1日から3月14日において前月2月に関して回答してもらったものである。研究仮説は、①組織評価は職業性ストレスと急性ストレス反応の緩衝要因となるであり、②急性ストレス反応の因果モデルは、看護師経験年数別に異なるである。本研究は2つの研究仮説を検証した結果となった。</p> <p>3) 知見の新規性と意義</p> <p>本研究の新規性は、先行研究を踏まえたうえで、看護職組織評価を含めたストレスモデルを作成し因果関係を明らかにしたことにより、急性ストレス反応に関連する項目の影響の強さや効果的な介入の順番を検証し具体的なストレス対策が判明したことにある。そして本研究の意義は、急性ストレス反応の一部である職務満足を高めることが離職防止になるため離職防止対策につながることを見出したことにあると思料される。</p> <p>2. 審査経過について</p> <p>審査会は2回開催している。初回審査で3人の審査員より研究結果と考察に関しての口頭試問が行われこれらの試問について適切に応答した。但し、各審査員よりいくつかの指摘事項があった。審査員からの指摘事項の対応について2回目の審査が行われ、各指摘事項については適切に対応済であることが確認された経緯にある。</p> <p>3. 合否結果</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(医療福祉経営学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 羽田 明浩</p> <p>副 査 水巻 中正</p> <p>副 査 和田 耕治</p>		